

# 事前評価書

年度	27
整理番号	

事業名・路線名等		道路改良事業 一般県道 佐賀関循環線 (幸の浦工区)	事業主体	大分県
所在地		大分市大字佐賀関		
事業概要	事業の目的	視距改良や待避所設置を行うことで、沿線住民の安全性確保や利便性の向上を図る		
	事業内容	【計画延長・幅員】 L=780(500)m(現拡)、W=4.0(5.0)m (1.5車線の道路整備) 【構造規格】 第3種第5級 【計画交通量】 400台/日(H42) 【現況幅員・交通量】 W=2.5m 交通量 400台/日 (H27実測)		
	事業費	C=330百万円		
事業の実施計画	完成予定年	着手から6年(平成33年度)		
	事業段階毎の実施計画	1年目 道路詳細設計、路線測量、地質調査 2年目 用地測量、用地買収 3年目 道路改良工事(護岸工)、用地買収 4~5年目 道路改良工事 6年目 道路改良工事 完成		
事業の必要性	必要性・緊急性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小黒地区から生活・産業基盤となる佐賀関中心部(関地区)へ通じる唯一の生活道路</li> <li>・現況幅員4m以下(最小2.5m)で離合が困難</li> <li>・曲線半径が小さく(最小10m)、視距が確保できていない</li> <li>・道路下の一部が浸食されており、簡易な浸食法対策(モルタル吹付)があるが、恒久的な浸食対策(護岸工)が必要</li> </ul>		
	整備効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視距確保による安全性の向上、待避所確保による走行性・快適性の向上</li> <li>・集落の安全な生活道路を確保</li> </ul>		
事業手法・工法の妥当性	費用対効果分析	・1.5車線の道路整備のため費用便益比の算出は困難		
	工法の妥当性	・周辺環境への影響が最も小さい現道拡幅としている		
	コスト縮減	・1.5車線の道路整備を適用		
	環境等への配慮	・地形改変の少ない計画としており、自然環境に及ぼす影響は少ない		
事業実施環境	事業の実効性	・沿道自治会より要望書が提出され、地元の理解も進んでいる		
	事業の成立性	・道路法第15条に基づき事業を実施		
	事業の特殊性	・特になし		
対応方針		・以上のとおり事業の必要性が認められることから、本事業を実施したい		

